

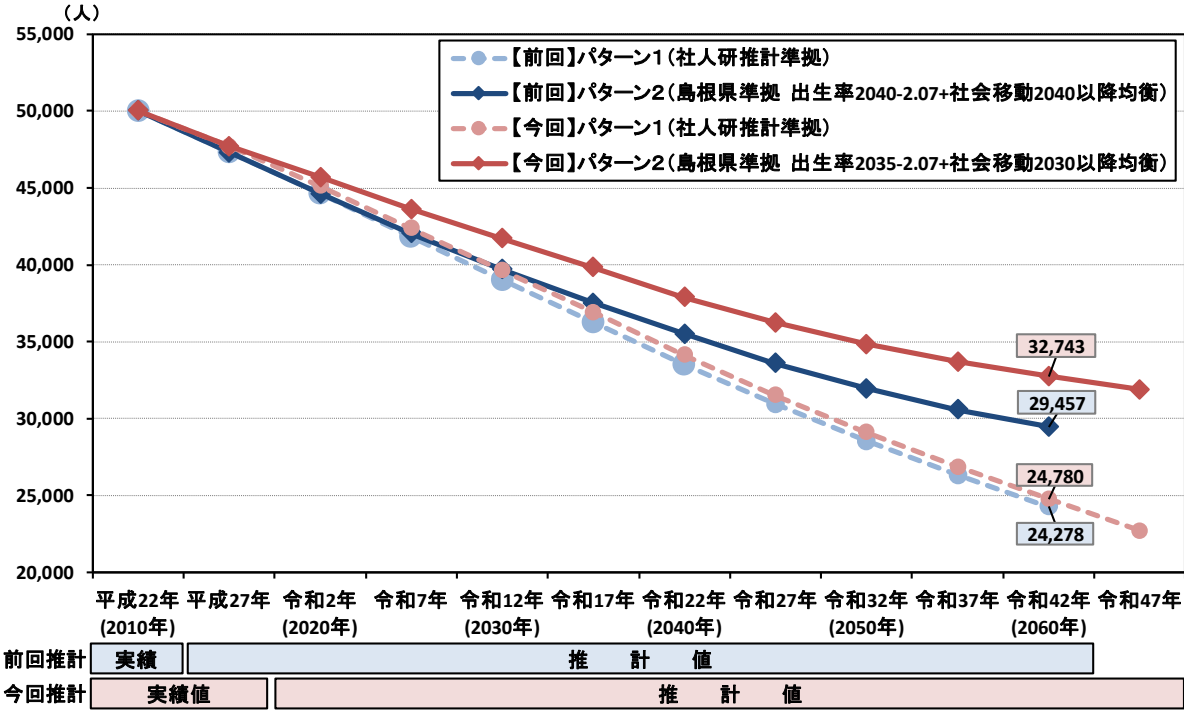
# 将来人口の推計

## 合計特殊出生率や社会移動について仮定値を変えた総人口推計の比較

ここに示す2パターンの推計は、人口変化の影響を考察するため、各条件を設定し益田市の将来人口を推計したものです。

パターン1の「社人研」推計では、2065年（令和47年）の総人口が22,708人となり、パターン2の島根県の人口シミュレーション2020に準拠した推計（合計特殊出生率：2035年（令和17年）に2.07まで上昇、社会移動2030年（令和12年）以降均衡）の場合には、29,779人と推計されています。「社人研」推計と比較すると、島根県の人口シミュレーション2020に準拠したパターンでは、7,072人多い結果となっています。また、平成27年度に策定の人口ビジョン推計結果と比較して、今回推計の求めた人口の減少幅は緩やかとなっています。

■総人口の推計結果



【前回推計】 益田市人口ビジョン 平成27年	実績値		推計値								
	平成22年 (2010年)	平成27年	令和2年 (2020年)	令和7年	令和12年 (2030年)	令和17年	令和22年 (2040年)	令和27年	令和32年 (2050年)	令和37年	令和42年 (2060年)
【前回】パターン1 (社人研推計準拠)	50,015	47,306	44,609	41,794	38,992	36,238	33,535	30,946	28,539	26,323	24,278
【前回】パターン2 (島根県準拠 出生率2040-2.07+社会移動2040以降均衡)	50,015	47,306	44,615	42,047	39,683	37,512	35,496	33,606	31,959	30,587	29,457

(資料)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に作成

(単位:人)

【今回推計】	実績値		推計値									
	平成22年 (2010年)	平成27年	令和2年 (2020年)	令和7年	令和12年 (2030年)	令和17年	令和22年 (2040年)	令和27年	令和32年 (2050年)	令和37年	令和42年 (2060年)	令和47年
【今回】パターン1 (社人研推計準拠)			45,115	42,383	39,623	36,895	34,141	31,510	29,091	26,868	24,780	22,708
【今回】パターン2 (島根県準拠 出生率2035-2.07+社会移動2030以降均衡)	50,015	47,718	45,680	43,609	41,692	39,810	37,883	36,226	34,822	33,681	32,743	31,883

(資料)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に作成

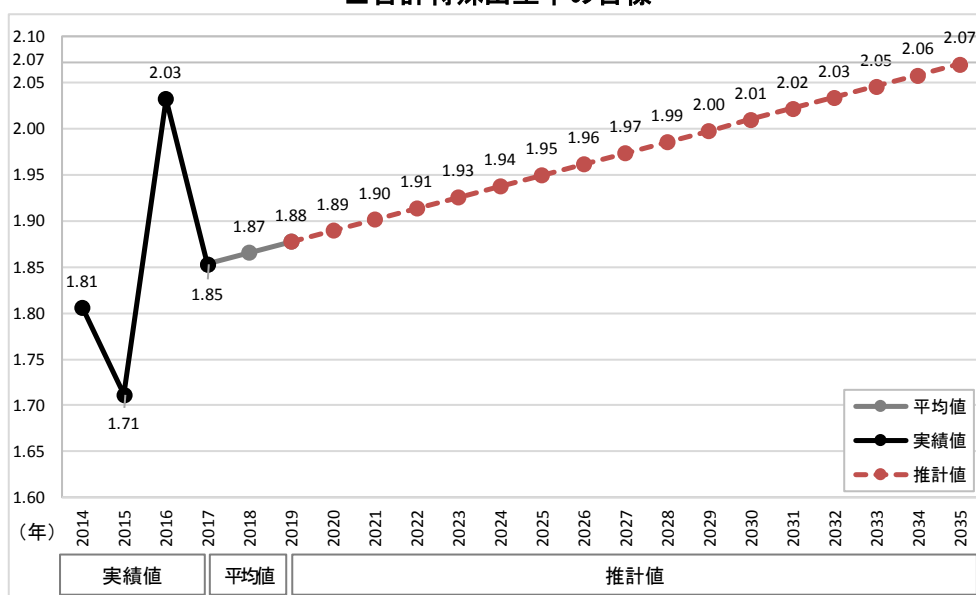
## パターン 2 で用いた合計特殊出生率と社会移動に関する設定の考え方

パターン 2 の推計に必要な以下に示す仮定値の設定については、島根県の人口シミュレーション 2020 に準拠しています。

### ●合計特殊出生率の目標

合計特殊出生率については、島根県の人口シミュレーション 2020 において、2035 年に 2.07 となっていることから、本市においても直近の実績値を踏まえた 2018 年（2015～2017 年の 3 か年分の平均値）を起点として、2035 年に 2.07 を目指します。

■合計特殊出生率の目標



### ●人口の社会移動の目標

人口の社会移動については、島根県の人口シミュレーション 2020 において、2030 年に均衡 (±0) となっていることから、直近の実績値を踏まえた 2019 年（2017～2019 年の 3 か年分の平均値）を起点として、2030 年に均衡 (±0) を目指します。

■社会移動の目標

